

トタンや樹脂製…素材で異なる利点

ホームセンターや、インターネットの通信販売サイトでは、さまざまな種類の湯たんぽが販売されています。温める効果などに差はあるのでしょうか。トタン、ポリエチレン、ゴム、ポリ塩化ビニールの4種類を製造している尾上製作所（兵庫県姫路市）に聞いてみました。

昔ながらのトタン製は、表面に熱が伝わりやすく、お湯を入れてすぐに温め効果を発揮します。ただ、さびの発生を防



トタン製



ポリエチレン製



ゴム製

ぐため、長期間使わない場合は天日干しして内部を乾かす必要があります。

ポリエチレン製は、トタン製に比べ熱を伝える力はやや劣ります。一方、軽くて値段が安く、特別な手入れをしなくても長持ちする利点があります。ゴム製やポリ塩化ビニール製は、材質の劣化を防ぐため、入れるお湯の温度が約70度以下に制限されています。軟らかくて肌合いが良く、いすに座って腰に当てたりするのに便利です。

製品安全協会によると、2010年度の湯たんぽの推定出荷量のうち、ポリエチレンなどの硬質合成樹脂製が90%以上を占めました。ポリ塩化ビニールなどの軟質合成樹脂製は5%強、トタン、銅などの金属製とゴム製はそれぞれ1%強でした。ほかに、陶器やウエット素材の製品も市販されています。

今回のテーマはいかがでしたか。感想をお寄せください。家庭で実践していることの紹介や、質問も歓迎します。採用分に謝礼。テーマ提案もどうぞ。〒380-8546 長野市南県町657 信濃毎日新聞社文化部（☎026・236・3143、ファクス026・236・3194、メールkurasahi@shinmai.co.jp）まで。